

法ニ於テハ、少シモ疑ヒナキコトヲ得タリ、蓋シ其法皆實驗ノ事蹟ニ本ヒテ、毫モ矯誣ノ鑿說ナシ、故ニ其精詳ナルコト、造花ノ秘頤ヲ探リ、萬物ノ究理ニ涉ルト雖モ實測一軌ニシテ、虛輒ヲ設ケザレバ、條理井然トシテ、望洋ノ惑ヒナク、簡易捷徑ニ説キ示スヲ以テ、見ルニ隨テ解シ、聞クニ隨テ曉リ、群類ニ觸テ意匠長ジ、舊圈ヲ脱シテ活眼ヲ開ク、是ヲ以テ、驚才俊ガ如キモ、思ヲ費サズ、力ヲ勞セズシテ、結構ノ徑庭ヲ窺ヒ、年月ノ久キヲ積ズシテ、頗ル此道ノ概略ニ通ズルコトヲ得タリ、○下

〔日本洋學年表〕弘化四年丁未、二五〇七、緒方洪庵亦病學通論ヲ譯述シテ、病因病證ヲ説ク、病。理。書。始。タリ、

醫神

〔和爾雅二神一〕ヲホナムチ、大己貴命、ススナヒコナ、小彦名命醫師神

〔日本書紀神代〕一書曰、○中夫大己貴命與少彦名命戮力一心經營天下、復爲顯見蒼生及畜產、則定其療病之方、

〔日本書紀神代〕十三年二月甲子、是日皇太后宴太子於大殿、皇太后舉觴以壽于太子、因以歌曰、虛能彌企破、和俄彌企那羅儒、區之能伽彌、等虛豫珥伊麻輸、伊破多多須、周玖那彌伽、未能等豫保枳保枳、茂苦陪之、詞武保枳保枳玖流保之、摩菟利虛辭、彌企層、阿佐孺塢齊佐佐、

〔奇魂〕醫藥名義并醫風變化、附本道辨

記紀なる神功皇后の御歌に、○中少名御神は、即醫藥の祖神にませば、言痛く論ふまでもなく、藥神と詔給意にて、取もあへず醫藥と云言の明徴也、是を記傳には、酒の首長と云意也と云、釋紀には、奇神也、私記曰、奇異之義也云々、私記曰、少彦名神是造酒神也、今有其遺跡、云といはれたれど、若然らば、式の酒司杯に此御神を祭玉ふべきに、他神を祭られたる物をや、總て何にまれ、其群黨あるうへならでは、首と云がたかるべし、又神等は皆奇なるに、此御神のみ奇と云べか